

愛南町次世代型水産業振興ネットワークシステム事業

自治体情報

愛媛県 愛南町

人口 / 25,117人

標準財政規模 / 11,115百万円

担当課 水産課 水産振興室

電話番号 直通 0895-82-1376

実施主体 愛南町

関連ホームページ <http://www.ainan-gyoshoku.jp>

事業期間 平成22年度から

関係施策分類

予算関連データ

総事業費：49,170千円（H22）

| 名称 | 所管 | 金額(千円) |
|----------------------|-----|--------|
| 情報通信技術地域人材育成・活用事業交付金 | 総務省 | 49,170 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

施策のポイント

ICT利活用により、海の環境・魚病情報を可視化及び共有することによる戦略的な水産業の実現、及び水産の未来を担う人材の育成による次世代型水産業の普及促進を図る。

施策の概要

1. 取組に至る背景・目的

愛南町は愛媛県の最南端に位置し、日本で最も水産業が盛んな地域の一つである。水産業におけるICT利活用の取り組みは非常に遅れており、漁業者・漁協・町・大学とのコミュニケーションを活発化して必要な情報を共有し、業務の改善を図る必要がある。本事業では、ICTを高度に利用した水産業を「次世代型水産業」と位置付け、その次世代水産業の確立と普及促進を目指す。

2. 取組の具体的内容

(1) 水域情報可視化システム

愛南町内の漁業者や養殖業者は、端末（パソコン又は携帯電話）から「愛南町水域情報ポータルサイト」にアクセスすることで、愛南町の各水域における環境情報（水温、溶存酸素、塩分濃度、赤潮発生情報）を閲覧することができる。

(2) 魚健康電子カルテシステム

愛南町において発生した魚病の診断を町水産課魚類養殖振興係の職員が行っており、診断フローを電子化することで、膨大なデータを病気別・時期別・地域別等に分け、魚病発生状況を把握することができる。

(3) 次世代水産業普及ネットワーク

愛南町では、「魚食」だけでなく「魚触」「魚職」等の意味を含めた“ぎょしょく”教育を推進している。子供向けに「愛南ぎょレンジャー」等のキャラクターをデザインし、“ぎょしょく”を次の世代に伝えるための活動を積極的に行っている。本ネットワークは、“ぎょしょく”を普及する人材の育成や、消費者に向けた“ぎょしょく”情報の発信に活用する。「ぎょしょく学校」を開設し、“ぎょしょく”に関するクイズに答えていくと、「愛南ぎょしょくキッズマイスター」に認定される。

3. 施策の開始前に想定した効果、数値目標など

魚病診断や環境情報を共有化することでデータを活用した効率的な養殖が可能となる。特定の感染症が町内で蔓延した場合や赤潮が発生した場合には、システムを通じて情報を発信して養殖業者に警告することができる。

また、“ぎょしょく”普及や人材育成がネットワークで広く促進され、水産業の活性化に繋がる。

4. 現在までの実績・成果

愛南町内の多くの漁業者がこのシステムに登録しており、情報の共有化が図られている。

赤潮発生情報配信により、養殖業者は赤潮対策を講じている。

小中学校での“ぎょしょく”教育に利活用されている。

5. 導入・実施にあたり工夫した点や苦労した点とその対処法・解決策など

この愛南町次世代型水産業振興ネットワークシステムは、全国初のシステムであり「どのように作るか？」という点で苦労した。

養殖業者、愛媛大学教授等の有識者、漁業協同組合、町、システム開発業者で協議会、ワーキンググループを設置し、十分な協議・検討を重ねシステム開発を行った。

6. 今後の課題と展開

漁業者・漁協・町・大学間のネットワーク体制を確立し、この事業を持続的な事業として展開・拡大していく必要がある。